

# 戸別所得補償実施円滑化基盤整備について

～ 戸別所得補償制度を下支えする農業生産  
基盤整備を推進するために ～

平成22年9月  
農林水産省

### 要望のポイント

- 食料自給率の向上に向けた新しい農政が始まります。
- これに併せて食料生産のインフラ整備のやり方を抜本的に改革します。
- 具体的には既存の補助事業を廃止し、自給率向上を目指す「戸別所得補償実施円滑化基盤整備」を創設します。

### 事業の概要

#### 【内容】

食料自給率向上対策の要は、輸入に頼っている麦や大豆の生産拡大です。

麦や大豆は、水はけの良い農地で水をしっかり管理しなければ、収量や品質は向上しません。

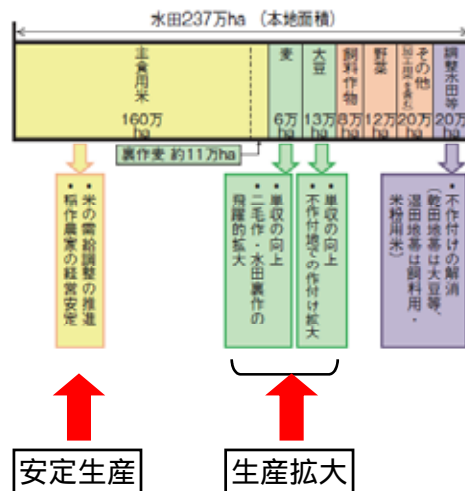
この対策は

**農地の水はけを良くする**

**古くなり壊れかけた用水路や排水路を直す**

ことにより、戸別所得補償制度の本格実施という新しい農政を下支えするものです。

○ 食料自給率向上を図る上でのポイント(水田)



### 現 状

小麦は国内消費量の約9割、大豆は約7割を輸入に依存しています。消費者にとって安全・安心な国産の麦・大豆が求められています。

### 事業の効果

#### 農地の水はけを良くする



・暗渠排水  
・地下かんがい  
排水システム



有孔パイプ

暗渠排水は、穴のあいたパイプを土の中に埋設し、地下水位を低くします

大豆は湿害に弱いので、水につかると収量及び品質が大幅に低下します。

#### 古くなり壊れかけた用水路や排水路を直す



・用排水路が老朽化すると

- ア 漏水による水不足が発生し、
  - イ 水が欲しい稲の作付け田に水を送り、水を嫌う大豆の作付け田の水を抜くことが出来なくなり、
- 米・麦・大豆の品質や収量が低下します。
- 高度成長期を中心に造られた施設が毎年500箇所前後更新時期を迎えています。

我が国では二千年以上の永きにわたり、人間の生存にとって不可欠な食料を確保する農地と水に手をかけてきました。

この歴史的な仕事を不断に見直しなが、農地と水を良好な状態で次の世代に引き継ぎます。

詳しくはこちら

## 戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業Q & A

### 事業の必要性

Q1 このような事業を農家は本当に望んでいるのですか。



A1 用水路や排水路を直したりする平成22年度の予算は、前年度の4割に減っています。一方で、古くなって壊れかけている水路は毎年増えているので、農家の「直して欲しい」という要望に応えることができず、困っている人がたくさんいます。

Q2 補修が必要な水路等のすべてをこの事業で整備するのですか。



A2 この事業は、効率的な生産が行われて、事業の効果が高い地区に限定して実施します。具体的には、まとまった農地が広がる地域で、麦・大豆の生産等に取り組む地区が対象となります。当然、麦・大豆の生産拡大等のための計画が必要となります。

Q3 せっかく整備しても、後継者がいないために農業が継続できないのではないですか。



A3 戸別所得補償制度では、農家がたくさんの農地を借りたり、集落のみんなで取り組めば、収入が増える仕組みとなっており、農業を続けることができます。ただし、整備していない農地は手間がかかるため他の人に引き受けてもらえないケースがほとんどですので、農地の整備が不可欠です。

### コスト効果

Q4 事業には無駄が多く、費用がたくさんかかりませんか。



A4 この事業は、いわゆるハコモノは作りません。工事は、新しい技術を活用して費用を少なくし、簡単な工事では、材料を買って農家や地域の人たちが自ら工事を行うこともします。

Q5 事業の効果は数値できちんと把握していますか。



A5 現在、事業を行う前に効果がどれくらい出るか計算していますが、今後は、事業の途中や終わってからも同じ計算をして、効果がきちんと出ているか確認していきます。また、その計算の資料についても公表します。

Q6 事業にはたくさんの税金が投入されており、農家ばかり大切にされていませんか。



A6 この事業は、消費者にとって安全・安心な米・麦・大豆等を国内で生産するために、今ある用水路や排水路にきちんと水が流れるようにするためのものです。また、農業が続けられることにより、田んぼが洪水を防ぐ役割を果たし続けることもできます。

### 環境

Q7 事業を実施すると、生き物が住みにくくなるなど、環境を破壊しませんか。



A7 この事業では、生き物などその地域の生態系に関心を持つ住民の方々の意見を聞きながら環境を守る計画をたて、水田と排水路をつなぐ魚の通路をつくって、ドジョウやメダカが行き来できるようにしたりします。